

1 単元名 球技（ベースボール型）

2 目標

- 安定したバット操作と走塁での動き，連携した守備等によって攻防を展開することができるようにする。 (技能)
- 安定したバット操作の習得に向けた練習に主体的に取り組み，フェアプレイを守ろうとすることを大切にして，ベースボールの楽しさを味わうことができるようにする。 (態度)
- 球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方を理解し，課題解決に向けた練習の仕方を多面的に考えることができるようにする。 (知識，思考・判断)

3 単元について

(1) 教材観

ベースボールは，身体やバットの操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防を規則的に交代し，一定の回数内で相手チームより多くの得点を競う合うゲームである。バット操作と走塁によって得点を得ることや，ボール操作と守備で失点を防ぐところに楽しさや喜びを感じることができる。また，チームの仲間と協力して作戦を立てたり戦術を工夫したりすることによって勝敗を競い合う喜びを味わうことができる。一方で，「ゴール型」や「ネット型」の種目に比べて経験のある生徒が少なく，「打つ」，「走る」，「捕球する」，「送球する」など幅広い技能が必要とされることから，苦手意識をもってしまうことも予想され，これらの克服が課題である。

(2) 生徒の実態（男子\*名，女子\*名，計\*名）

本学級の生徒は，第1学年においてベースボール型の学習を行っているが，体力テストの結果では「ハンドボール投げ」において男子の平均が\*m，女子が\*mで全国平均を下回る結果であった。また，事前の意識調査（平成\*年\*月\*日実施）において，「ベースボール型の学習が楽しみである」と答えた生徒は\*名，「ベースボール型の運動が上手にできるほうだと思う」と答えた生徒は\*名のみであったことから，技能の習得が不十分であることが学習意欲や運動有能感の低下にも繋がっているものと考えられる。また，指示されたことに対しては一生懸命動くことができるが，自分の考えや判断で行動することができない生徒が多いのが課題である。

(3) 指導観

指導にあたっては，少人数グループでの活動や野球経験のある生徒を各グループのリーダーとし，教え合う活動が行われるように設定するなど学習形態を工夫したい。また，生徒同士が互いの課題や成長を実感したり，様々な役割を経験したりすることで，仲間と協力しながら同じ目標に向けて活動する楽しさを体感させたい。さらに，簡易なルールから段階的にルールを改定していくことで，ゲーム中の様々な役割を経験させ主体的な判断行動や役割行動が自チームの得点や失点防止につながることを理解させ，自ら進んで運動に取り組むことができる生徒を育てていきたい。

4 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
学習活動に即した評価規準	① 自己の役割を ◎主体的に果たそうとしている。 ② 課題解決に向けた話合いに◎積極的に関わり、発言したり同意したりしている。	① バット操作やボール操作の◎ポイントを知り、確認しながら練習をしている。 ② 掲示された資料をもとに、自己やチームの課題に応じた練習方法や作戦を◎的確に選んでいる。 ③ 友達の良いプレイを見ることで、◎動きを分析し、自身の練習に生かしている。	① 投球の方向と平行に立ち肩越しにバットを構え、タイミングを合わせて◎正確にボールを打ち返すことができる。 ② ◎常にボールの正面に回り込んで、ゆるい打球を捕ることができる。 ③ ポジションの役割に応じてベースカバーやバックアップの基本的な動きが◎スムーズにできる。	① 技術の名称やゲームの行い方について、◎具体例を挙げ書き出している。 ② 試合のルールや審判の方法について◎的確に理解している。

◎下線は十分に満足できる姿

5 指導と評価の計画（8時間扱い）本時は○印

○は指導の機会 □は評価の機会 ⇄は観察評価期間

段階	時間	主なねらい・学習活動	評価計画			
			関	思	技	知
はじめ	50分×1	○運動の特性や学習のねらい、進め方を理解する。 ○学習カードや資料の使い方を知る。 ○ボール操作についての練習の仕方を理解する。	① ↑			
1		1 ルールや学習のねらい、進め方について知る。 2 学習カードの記入の仕方や資料の活用方法を知る。 3 チーム編成をして、自分の役割を確認する。 4 ボール操作（キャッチボール）をする。 5 バット操作（ティーバッティング）をする。 6 学習を振り返る。				① 学習カード

なか 1 50 分 × 3	2	○ゲームの特性を理解しながら、基本的な技能を高め、仲間と協力して主体的に学習に取り組めるようにする。	↓ ① (観察)		↑ ①	
	3	1 本時の学習内容を確認する。 2 遠投キャッチボール, Tバッティングを行う 3 ゲーム①を行う。 ・並びっこベースボール (岩田, 2012) 4 チームの課題や作戦を確認する。(学習カードに記入)		① (観察)	↓ ① (観察)	
	4	5 ゲーム②を行う。 ・並びっこベースボール 6 学習を振り返る。			↑ ②	
なか 2 50 × 2	5	○チームにおける自己の役割を理解し、主体的に判断しながらプレイすることができるようにする。			↓ ② (観察)	② (観察)
	⑥	1 本時の学習内容を確認する。 2 チームごとのアップメニューを行う。 ・キャッチボール ・ベースランニング ・ベースカバー走 ・Tバッティング等 3 ゲーム①を行う。 ・ネオ・フィルダー・ベースボール (岩田, 2016) 4 チームの課題を確認し、次のゲームの作戦を考える。(学習カードに記入) 5 ゲーム②を行う。 ・ネオ・フィルダー・ベースボール 6 学習を振り返る	↑ ②	② (観察)		
まとめ 50 × 2	7	○チームの作戦における自己の役割を理解し、主体的に判断しながらプレイを楽しむことができるようにする。	↓ ② (観察)		↑ ③	
	8	1 本時の学習内容を確認する。 2 チームごとのアップを行う。 3 リーグ戦を行う。 4 表彰式を行う。 5 学習のまとめを行う。		③ (観察)	↓ ③ (観察)	

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

- 課題解決に向けた話し合いに関わり、発言したり同意したりしている。  
(運動へに関心・意欲・態度)
- チームの課題をもとに、課題に応じた練習方法や作戦を選んでいる。  
(運動についての思考・判断)

(2) 準備物・資料

ゴムボール、バット、テニスラケット、学習カード、移動式黒板、カラーコーン、フラフープ、得点板

(3) 展開 (6/8)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の視点・方法
はじめ 5分	1 整列・挨拶をする。 ・出席・健康観察  2 本時のねらいを知る。	・生徒の健康観察を行う。 ・見学者がいる場合には得点係等の役割を与える。 ・前回の学習内容を提示し、本時の学習内容と比較しながら確認させる。	
なか 35分	3 チーム毎のアップメニューを行う。  4 チームの課題を確認し、ゲーム①(ネオ・フィルダー・ベースボール)を行う。  5 ゲーム①での課題を確認し、チーム毎に課題練習を行う。 ・キャッチボール ・ベースカバーの動き ・バッティング練習等  6 ゲーム①の課題を踏まえ、ゲーム②(ネオ・フィルダー・ベースボール)を行う。	・バッティングやボール操作に関わる筋肉を解すことのできるアップメニューをチーム毎に考えさせて実施させる。 ・技能や戦術に関するポイントを移動式黒板に掲示し、ゲームを行う前に作戦を考えさせる。 *バッティングにおいて打撃力が低い生徒には、テニスのラケットを用いてゲームを行わせる。 ・カバーリングや中継など、ボールを持たない時の動きに注目するよう助言する。 *移動式黒板に色付きのマグネットを貼り、守備の動き方の例を示して真似をさせる。 ・打球の方向や、守備の動きを客観的なデータとしてビデオで収録し、生徒にフィードバックする。	〈関心・意欲・態度②〉 課題解決に向けた話し合いに◎積極的に関わり、発言したり同意したりしている。(観察)  〈思考・判断②〉 掲示された資料をもとに、自己やチームの課題に応じた練習方法や作戦を◎的確に選んでいる。(観察)
まとめ 10分	1 後片付けと整理運動を行う。  2 学習活動の反省と次時の課題を確認する。  3 挨拶をする。	・生徒の健康観察を行う。 ・学習カードをもとに本時の振り返りをさせる。 ・本時のまとめをする。 ・より多く得点を重ねたり、失点を防いだりするためにはポジショニングやチームでのコミュニケーションが重要になることを理解させる。	

\*は努力を要する生徒への手立て